

私は税金に対してあまりいいイメージがなかった。私の知らない誰かのために、私が払った税金が使われている。そう考えると、少し不満だったのだと思う。しかし、ある出来事が私の考えを変えてくれた。

それは、兄がコロナウイルスに感染したことだ。兄は家から離れた地域で働いているため、一人暮らしである。だから、感染したと分かったとき、私は不安になった。もし、自宅療養中に体調が悪化すると誰にも頼れないのではないだろうか。買い物に行けない中、食事はきちんと取ることができるだろうか。様々な不安が募る中、宿泊療養施設の存在を知った。自宅療養が困難な人が、ホテルなどの宿泊施設で支援を受けられる場所だ。親の勧めもあり、兄はこれを利用することになった。利用している間は、毎日食事を用意してくださったり、看護師が体調確認をしてくださったりした。これらは全て無償で提供されていた。税金が使われていたのだ。私はそのことを知ったとき、今まで自分が考えていたことが恥ずかしく感じた。兄は、多くの人が払った税金によって支えられたのだ。それから、税の仕組みや問題について調べるようになった。

ニュースを見ていると「脱税」という言葉をよく耳にする。脱税とは、納める必要がある税を納めないことである。原因は大きく二つあると思う。一つは、知識不足だ。税について理解が薄いと、自分が税を納めていないことにも気付けない。無知であることは怖いのである。大人になったとき、知らなかったと言わないために、私たち子供も税について学ぶことが大切だと思う。もう一つは、自分の利益を優先する気持ちだ。お金が欲しいという欲から脱税に手を染めてしまう。しかし、日本には納税の義務があり、脱税は決して許されることではない。脱税をする人を減らすためにも、税に対して前向きな考えを広めることが解決策の一つだと思う。

税を納めることは、「優しさ」と「感謝」を納めるという意味だと思う。「優しさ」は税金を必要とする人や地域に届いてほしいという願いを込めて。「感謝」は税を納める人に、私の暮らしを支えてくれて、ありがとうの気持ちを込めて、私たちが生きる社会は税を通して支え合っているのだ。税金がなければ、学校や消防、救急活動などが当たり前存在する社会ではなくなってしまう。当たり前を守り続けるためにも税は必要である。

私は兄の出来事をきっかけに税に対する意識が大きく変化した。苦と感じていた税を前向きに捉えるようになった。私の納めている税は、消費税だけである。しかし、私にできることは、税を納めることだけではない。税について学び、考えたことを周囲に伝える。これが、今の私にできる最大の社会貢献であり、税と共に生きる鍵となると思う。